



第 3 4 卷 1・2 合 併 號

機 業 特 輯 號

- 攝津平野郷に於ける綿作の發展……………高 尾 一 彦
- ロンドン新冒險商人組合の設立……………星 田 輝 夫
- 小 松 絹 の 發 展……………岩 井 忠 熊
- 古代中國の機織技術……………太 田 英 藏

海 外 學 界 紹 介

- アルタイ・バズイルイク第二號墳の調査  
……………角 田 文 衛

機 業 關 係 著 書 論 文 目 録

書 評 ・ 彙 報 ・ そ の 他

史 學 研 究 會

東洋史研究会 寄贈

京都大學文學部東洋史研究室  
東洋史研究会  
振替口座京都三二七二八番

一九五〇年一月一日發行





⑫ 「小松史料編」上 P.1070 「絹縮方一件」

⑬ 「加賀藩史料」第十二編 P.940

⑭ 「小松史料編」下 P.637 「絹運上之事」

「近年御郡方におゐて絹出来之躰に付、小松町絹商賣之者とも迷惑之趣等……」

年代は不明であるが、宛名から察して幕末のものと思われる。

⑮ 同 上 P.1074

⑯ 同 上 P.1072 「糸絹仲御差止等一件」

⑰ 同 上 P.635 「絹道御差止之一件」

本誌三三ノ五所載「我が律令時代の里と郷とに  
ついて」の正誤表

梗概	頁行	誤	正
三三下	2	靈龜二年(七十六年)	靈龜元年(七十五年)
三三上	3	(六三〇年頃)	(六三〇年)頃
三三下	4	戸分	戸令
三三上	9	上更に	上令
三三下	12	戸分	戸令
三三上	13	雑誌文化	以上は雑誌「文化」
三三下	18	馬言ひ	馬言ひ
三三上	14	我が律令時代の郷	我が律令時代の郷制
三三下	1	郡制	郡制
三三上	4	制勅の	制勅が
三三下	1	改められたことに氣が	改められたことに氣が
四〇下	17	ついで	ついで
四五上	5	修里制	條里制
四五下	5	曰く云云	曰く云云
四六上	7	椿原村。	椿原村

口 繪 解 說

圖版A・B。藤縣畫象は、一九二九年から三〇年の頃に山東省の滕縣から出土したもので、昭和二四年の秋に京大人文科學研究所で催された「新出漢畫象石拓本展」にならべられ、初めて紹介された新史料の中のものである。機織圖は既に知られたものが三種あるが、こゝに掲げた圖版は何れもかなり精細さのあるものだが、本文に述べたように技術的な解明ができぬ點が甚だ多い。滕縣畫象で興味をひくのは機を織るまでの準備作業がわかることで、この點東京大學工學部藏の織機左方にあるの筈(ワク)を轉じている圖と共に漢代の機織の準備工程や道具が如何なるものであつたかが知れる。この圖の技術的に解くよりも、明の宋應星の『天工開物』と比較されると一層興味が深いであろう。B圖下段の左方は杼などにはめる緯管(筘・杼)を卷く緯車圖で、A圖にも同じものが刻畫されているが、『天工開物』の「紡車圖」にあたり、左上の隅にある字形のものは横竿にかけた緯である。右方は緯を繰る圖で『天工開物』の「調絲圖」と一致し、人物が手に持つものは緯を巻いた筈で、袖の下のあるところにある三本の柱のあるのはタタリ(杼)であつた、何れも『天工開物』のものと同變りがない。(太田英藏)

執筆者紹介

- 高尾一彦氏 京大文學部特別研究生
- 星田輝夫氏 京大文學部助手
- 岩井忠蕉氏 立命館大學文學部講師
- 太田英藏氏 川島織物研究所々員
- 角田文衛氏 大阪市立大學助教授

簡単な概説を試みている。

古墳時代

石製・土製の有孔小圓板は、古墳・住居址・祭祀遺跡等から多数に發見される。これ等はおしなべて紡錘車と呼ばれているが、果してそのすべてが紡錘車であつたかは疑問であつて、鏡の模造品とする説もある。(高橋博士後掲書 一五一―一六頁)

織機の資料は上野上細井古墳發見の石製模造品が唯一のものである。

高橋健自「古墳發見石製模造器具の研究」

(帝室博物館學報第一冊 六八) 二八一―

三〇頁

これについては上掲太田氏論文も論及している。

古墳から發見される布の殘片は未報告のものも含めてかなりの數に上つているが、綜括的な研究發表は皆無である。個々の報告書の記載も非常に簡單であるので、技術的な研究のために貨物を再検査する必要がある。たゞ

清野謙次・三宅宗愷「阿武山古墳の乾漆棺内

に於いて發見されたる布片」(攝津阿武

山古墓調査報告)附録)のみは詳細な記

述を試みている。

その他年代は不明であるが筑前宗像神社沖

津宮御金藏内遺物の中に雛形金銅製高機一具がある。

豊元國「官幣大社宗像神社津宮境内御金

藏發見の金屬製造品に就いて」(考古學

一一―一三)

歴史時代のものとしては正倉院に於ける貨物から壁面その他にみる資料があるが、技術的方面の研究としてはまことに寥々としてい

る。

明石染入「飛鳥時代の染織文様と服制」

(「東洋美術」特輯、日本美術史二)

「寧樂時代の染織と服飾文様」

(「東洋美術特輯」日本美術史)第三

「天平時代の染織について」

(「佛教美術六」)

石田茂作「奈良時代の染色技術」(奈良時

代文化雜攷)

「天平古裂の文様について」

(「瑞錦と我が上代錦」(學藝

四〇八)

「上代錦綾とその作者」(「正倉

院文化」)

「弘法大師將來徒陀敷子製表につ

つ」(「東洋史研究」昭二二・八)

佐々木信三郎「神護寺經軼帙錦綾私見」

(「川島織物研究所報告」昭一八)

次號豫告(三四ノ三)

日本上代に於ける乗馬の風習

未定……………小林行雄

チュルク族の始祖傳説について……………阿崎精郎

史料解説―ルースカヤ・ブラウダー……………河村盛一

學界動向(國史・民俗學)……………

著書論文目録・書評・その他……………

前號目次(二三ノ六)……………

北陸門徒の關東移民……………五來重

ジョン・ディッキンソン……………今津晃

のえらんだ道……………

宋代解州官營鹽業の構造……………池田誠

學界動向(西洋史)……………

資料紹介、書評、論文索引、その他……………

ている、實永より暮末に迄及ぶ莫大な覺帳の一節である。

本文は寶曆三年七月平野郷綿質中買と油屋仲間との返答状である。綿質は、江戸中期以後攝河に於ける綿作の發展と平行して、菜種と共に人力稼、水車稼により搾られる油及油粕の重要な原料であつた。綿織りの副産物として繰綿商賣過半の助けになると記されてゐるように、かくも重要な綿質の賣買に關し、繰屋仲間、百姓繰りの自由賣買の要望と、油屋及び中買商人の獨占買付け要求とが對立している。後者の訴狀によれば、中買が繰屋と油屋の間に立つて綿質を扱うのが古來よりの仕來りであり、彼等は又百姓が當地に持ち込んだ吹綿から出來た綿質や、大阪三郷や近國他國からの綿質をも、買取る事が出來たらしい。しかるにこの寶曆頃、大阪には、買付けに關して獨占的な大阪油屋仲間が出來、又平野への綿も量を減じた事から、平野の油屋・中買は自らも又獨占的に平野郷の綿質を買付けなければ立ち行かないようになった。これに對し繰屋は中買に賣口を獨占される事は綿質價格を彼等に決定される事になり、いきおい價格の下落を覺悟せねばならないから、そ

うした油屋等の要求に對しては勿論、大阪の油の時價を見て綿質の價格を考慮しようといふ妥協案に對してさえも眞向から反對せざるを得なかつたのである。この對立こそ暮末に於ける都市商人的ギルド的強制とそれに對する農村企業の自由への要望との矛盾の激化に他ならない。當地油屋中買を獨占へとかり立てた要因が農村における百姓繰の發展にあつた一例えば「三拾年以前迄八百姓自分＝木綿繰申儀貸テ無之」(中買訴狀の一節)一如く、又繰屋が百姓繰と共通の利害の上に立つてゐる「繰之油屋中買大分之くり屋其外百姓繰」(本文)一如く、彼等が古き繁雜な封建的商業機構を破壊して一步一步自らの新しき自由な生産機構を農村に打ち立てて行つた一つの道標に他ならない。

編輯後記

本號は最初「近代化の經濟的基礎」というテーマで特輯する計劃であつたが、諸種の事情ではじめの意圖を、十分には果し難い結果になつてしまつた。特に中國・印度その他所謂東洋に於ける此の問題についての論稿を得られなかつたのは残念であつたが、太田英藏氏によつて、中國古代紡織技術に關する問題

作をのせる事が出來たし、日本西洋に於ける問題については、若い人達の方ある論文を收め得た。思うに、封建社會の諸種の束縛と闘いながら、社會を押し進め得た農民を描き出す事は、史林の歴史をふり返つて見て、餘り例のないことではなからうか。とも角、讀者諸氏の批判を賜われれば幸いである。

なお次號より、會員諸氏の積極的な投稿をお願いしたい。

史林 (第三四卷 一、二合併號)

一九五一年一月二十五日 印刷 定價一四〇圓  
一九五一年二月一日 發行

編輯 京都大學文學部内 史學研究會

代表者 織田武雄

發行人 大阪市東區南新町一ノ六 岸本貞三郎

印刷所 京都市右京區太秦上御部町一〇 大日本印刷株式會社 工場

大阪市東區南新町一ノ六

發行所 株式會社 教育タイムズ社

振替大阪七一九二〇番

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

(MONTHLY)

---

Vol. XXXIV, No. 1 Jan. & Feb. 1951

---

CONTENTS

The Development of Cotton Industry in Hiranogō,  
Settsu (Ōsaka) *K. Takao*

The Establishment of the King's Merchant Ad-  
venturers of the New Trade of London *T. Hoshida*

The History of Silk Industry at Komatsu *T. Iwai*

Weaving Technique of Ancient China *E. Ōta*

---

Book Reviews

News from the Academic World

---

*Published*

by

THE SHIRIN RESEARCH SOCIETY

(The Society for Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

一九五一年一月二十五日印刷  
第三種郵便物認可

史  
林  
第  
三  
十  
四  
卷  
第  
一  
・  
二  
合  
併  
號